

**【第267号 紙面案内】**

第2面……………第62回全国研究大会参加記

第5面……………第63回全国研究大会自由論題募集

新年のご挨拶

日本経営教育学会会長 松本 芳男

「この国には何でもある。本当にいろいろなものがあります。だが、希望だけがない。」新年早々、暗い書き出しで恐縮ですが、これは村上龍の小説『希望の国のエクソダス』において、反乱を起こした中学生のリーダーが国会議員たちに対して発した言葉です。昨今の日本の状況を見てみると、この少年ならずともつぶやきたくなる台詞です。

長引くデフレ不況下で下落する給料と高止まりの失業率、ニート、フリーターなど無業者・低所得層の増加、氷河期以上とさえ言われる新卒の就職難、過酷な労働環境の下で心身を病む会社員数の増加、3万人を超える自殺者、社会的引きこもり、孤独死……。こうした状況が日本社会にぬぐいようのない閉塞感を生み出していることは間違いありません。政治に目を移してみても、先の尖閣諸島問題、北方領土問題、普天間基地問題など、いずれも展望なき難題が山積されています。政治主導で景気浮揚策を実施すべき立場の政府は内紛に明け暮れ、野党も政権奪取のための攻撃に終始している感があります。

玄田有史(2009)によれば、「希望とは、未来について望ましいものとして意欲された主観的表象」ですが、1990年代以降、閉塞感という言葉が日本社会に頻りに登場してきたように、「将来に希望が持てない」という雰囲気社会全体に蔓延してきことが示唆されています。経済的停滞、人口減少、社会的に孤立した個人の増加などに加えて、効率重視や自己責任などの社会的価値観が強調されることへの違和感などが、希望喪失感が広がった背景として指摘されています。

また山田昌弘(2004)は、希望という感情は努力が報われるという見通しがあるときに生じるが、実質GDP成長率がマイナス1%となった1998年に、日本社会において「希望がなくなる」、すなわち「努力が報われる見通しを人々が持てなくなり始めた」と述べています。特に、マニュアル通り働くだけで能力向上の機会がほとんどないフリーターの増加は深刻な社会問題となっています。

多くの人々が、「自分の努力は報われるはずである」と考え、希望を持てるような社会にするためには、各人の能力開発が不可欠です。本学会もそのために貢献することが求められており、そのような期待に応える責務があると思います。

日本経営教育学会第62回全国研究大会参加記

田口 智子（北翔大学短期大学部）

第62回全国研究大会は、「長寿企業の経営とその今日的意義—伝統と革新—」という統一論題のもとに、10月29日(金)から31日(日)まで開催された。

29日は、徳川将軍家の菩提寺である大樹寺参詣と、伝統味噌を江戸時代初期より造り続けている合資会社八丁味噌の工場見学であった。

30日、31日は東海学園大学三好キャンパスでの開催だった。30日は、大会実行委員長櫻井克彦先生の開会挨拶、松本芳男先生の会長挨拶でスタートした。3本の統一論題報告がなされた。第1報告では、櫻澤仁先生（文京学院大学）が、「新しいビジネスモデルの台頭と起業家教育—経営教育の伝統と革新—」というテーマで、起業家教育の現状と問題点を示された。第2報告では、水谷内徹也先生（富山大学）が、「長寿企業の経営エクセレンス—理念主導の経営行動の探求」というテーマで、経営の原点への回帰および再認識の重要性を述べられた。第3報告では、櫻井克彦先生（東海学園大学）が、「企業存続の概念と今日的意義」というテーマで、共同原理と共生原理に基づく企業存続の概念と意義を示された。韓国経営学会からの派遣報告では、鄭相喆先生（任川大学校）が、「TRIX 技法による企業問題解決」というテーマで発表された。TRIX 技法の3段階の原理について、サウスウェスト航空事例をもとに、その有効性を示された。ブラザー工業株式会社相談役安井義博氏による特別講演「私の人間観、経営への思い」で、安井氏が最も強調された言葉は、「共生き」だった。「共生き」とは、「生かし・生かされ・生きる」という精神を意とし、一見対極にあると思われる「消費と生産」、「自然と人」は、互いに生かされ、互いに成長していることを示唆された。そして、「変化（CHANGE）には必ずチャンス（CHANCE）がある。変化から何をチャンスとし、戦略的に何を選択（CHOICE）して組織を率いていくか、それがリーダーの役割である」と述べ、燃え続ける集団作りをしていくことの重要性和、モノを製造し、新たな価値創造をして知的財産を生み出していくことの重要性を説かれた。

31日は、自由論題報告が8本（内3本は大学院生）あった。加藤里美先生（朝日大学）の報告「ベトナム・ハノイにおける大学生の企業選好」の司会を務めた。鈴木岩行先生（和光大学）は、「ベトナムにおける現地・日経・韓国系・台湾系企業における人材育成の比較研究」というテーマで、海外派遣報告を行った。諸先生および大学院生の研究発表では、フロアとの活発な質疑応答が交わされた。本大会最終プログラムの統一論題パネルディスカッションでは、コーディネーターの辻村宏和先生（中部大学）のもと、佐々木利廣先生（京都産業大学）、松本芳男先生（日本大学）、海老澤栄一先生（神奈川大学）が指定論者となり、統一論題の報告者であるパネラーとの討論が展開された。フロアとの質疑応答も活潑であった。第62回大会は、盛会のうちに終了した。

最後に、本大会にご尽力くださいました櫻井克彦先生、堀田友三郎先生をはじめ東海学園大学の教職員の方々、学生スタッフの皆さまにお礼を申しあげたい。

日本経営教育学会第62回全国研究大会企業見学

萩原 道雄 (萩原経営研究所)

合資会社八丁味噌の見学に先立ち徳川家康の菩提寺である大樹寺を拝観し、そこに内在する三河の歴史、文化に思いを馳せたのは、三河で生まれ長い歴史を持つ八丁味噌のお話を伺う前段として最適のものであった。

先ず工場を見学し八丁味噌の由来、製造方法(伝統的なのに驚く)などについてご説明いただき、最後に八丁味噌と赤だし味噌を試飲した。八丁味噌とは大豆を蒸し、麴を混ぜ、2年間寝かして作る大豆100%の味噌であり固く保存が効く。赤だし味噌は米味噌とのブレンドである。

見学を終え、第19代目代表社員の早川久右衛門氏からお話を伺った。ポイントは、①事業の継続性を目指す、②事業の拡大を無暗にしない、③利益、利益と頑張らない、だった。長寿企業の特性のひとつである身の丈経営に徹したうえで、顧客のニーズ・ウォンツを吸い上げた商品を提供している。早川社長の物に動じぬ雰囲気、経営思想、ひょうひょうとした語り口は、参加者に感銘を与えた。

◇◇関東部会開催のご案内◇◇

開催校担当教員：石井 泰幸 (千葉商科大学)

●日時：2011年5月14日(土) 13:30～17:00

●場所：千葉商科大学 図書館5階 会議室

●報告プログラム

※報告：40分、コメント・質疑20分

第1報告：13:30～14:30

報告者：上岡 史郎 (日本大学大学院博士後期課程)

テーマ：「持続的な生産性向上のための組織能力に関する一考察」

コメンテーター：山中 伸彦 (立教大学)

司会者：森川 信男 (青山学院大学)

(10分休憩)

第2報告：14:40～15:40

報告者：朴 慶心 (横浜市立大学大学院博士後期課程)

テーマ：「韓日米の半導体企業における経営システムの比較分析
—三星、東芝、インテルの事例を踏まえて—」

コメンテーター：犬塚 正智 (創価大学)

司会者：手塚 公登 (成城大学)

(20分休憩：コーヒープレイク)

第3報告：16:00～17:00

報告者：田中 信弘 (杏林大学)

テーマ：「EUにおけるコーポレートガバナンスとCSRの動向について」

コメンテーター：文 載皓 (富士常葉大学)

司会者：水尾 順一 (駿河台大学)

●参加費等：参加費500円、懇親会費3,500円

●お問い合わせ：関東部会長・佐久間 信夫 (042-691-6994 nsakuma@soka.ac.jp)

平成 22 年度第 1 回中部部会報告

藤木 善夫（愛知産業大学）

平成22年11月20日(土)14時00分より、第42回中部部会が東海学園大学栄サテライトで19名の参加者を得て開催された。

第1報告は、横井祐一氏（朝日大学）による「危機対応教育の事例と特質」、司会・コメンテーターは藤木善夫（愛知産業大学）であった。横井氏は、鉄道事業における危機管理に関する教育・訓練について、マニュアル化の行き過ぎによる組織行動の無機質化、それによる社会との調和からの乖離が生じがちであるとの問題意識の下、危機対応教育によって理念・使命・優先すべき価値観等、組織の基本的方向性を愚直に実践するための考える力を強めることの重要性について報告された。

第2報告は、倉橋洋子氏（東海学園大学）による「広告の借入語（Loanword）に対する企業の社会的責任について」、司会・コメンテーターは蕎麦谷茂氏（愛知産業大学）であった。倉橋氏は、広告に使用する Japanese English Loanwords、和製英語の英語学習への妨げについて、和製英語の特徴を分類され、大学生へのアンケート結果を報告された。その上で、国際的に理解されない和製英語を広告宣伝のために使用することの影響力について企業として社会的責任があると結語された。

第3報告は山崎直美氏（企業内教育コンサルタント）、栗田舞氏（高校非常勤講師）、上嶋正博氏（椙山女学園大学）による「社会人大学院修了者における学びと仕事」、司会・コメンテーターは加藤實氏（東海学園大学）であった。山崎氏、栗田氏、上嶋氏は、社会人が大学院で学ぶことのメリットについて、①理論・知識の有用性、②ヒューマンネットワークの機能と現状の2点に絞った聞き取り調査を社会人大学院修了者に行い、その結果について分析し考察された。その結果、社会人大学院の有用性は仕事上の行動や考え方の整理の枠組みとして、また現実の行動の振り返りの基準・手段として機能していることを報告された。

それぞれの報告終了後には活発な質疑応答がなされ、引き続き、堀田部会長を議長として部会役員、次回開催校等に関する議事が審議された。

報告会終了後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中会員間の交流が深められた。

* * *

平成22年度第2回中部部会報告会は、3月19日(土)に東海学園大学栄サテライトで開催の予定です。中部部会事務局では、随時報告募集を行っております。報告を希望される方は藤木善夫（愛知産業大学 岡崎市岡町原山12-5 TEL;0564-48-4511, yfujiki@asu.ac.jp）までお知らせください。

◇◇関東部会開催のご案内◇◇

平成23年度第2回関東部会は、平成23年7月23日(土)成城大学で開催の予定です。報告を希望される方は、2月12日(土)までに関東部会長・佐久間信夫（TEL：042-691-6994 nsakuma@soka.ac.jp）までお知らせ下さい。関東部会では随時報告者募集を行っております。

第63回全国研究大会自由論題報告募集

2011年6月（日時未定）に神奈川大学において開催される第63回全国研究大会における自由論題報告を募集します。会員各位からのご応募をお待ちしております。

応募資格は、本学会の会員（ただし、1年以内に報告された方の応募はご遠慮ください）。テーマは、本学会の目的に沿うものいたします。締切は、2011年3月31日（木）必着といたします。詳細につきましては、会報第266号をご参照いただくか、つぎの問い合わせ先までご連絡ください。

日本経営教育学会事務局（担当：魚住 良三）

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-4 榊山城経営研究所内

TEL：03-3264-2100 FAX：03-3234-9988 E-Mail：name@kae-yamashiro.co.jp

また、当該大会における自由論題報告の司会者を広く募集しております。司会をお引き受けくださる方は吉村孝司（組織委員長：yoshimur@kisc.meiji.ac.jp）までご連絡ください。

韓国経営教育学会への派遣報告者の募集

国際委員会委員長 手塚 公登（成城大学）

韓国経営教育学会（Korean Association of Business Education）との「報告者交換プログラム」に基づき、派遣報告者を下記のように募集します。応募者多数の場合は、国際委員会で選考します。報告テーマは「経営教育」に関連した内容であることが要求されますので、応募にあたりご注意ください。

派遣先：2011年度韓国経営教育学会（2011年4月中旬の予定、全羅大学校、全州）

応募資格：本学会員（大学院生を除く）

応募方法：氏名、所属、報告テーマ、報告要旨（日本語3000字以上）を郵送もしくはメールで学会事務局に送付してください。

締切日：2011年2月15日（消印有効、メールの場合は16時まで有効）

その他：派遣報告者には旅費補助として3万円を支給します。

機関誌投稿論文募集

機関誌委員長 河野 大機（東洋大学）

次号の原稿締め切りは、23年1月31日（月）です。投稿規程を守ってください。A4用紙でご提出願います（刷り上がりはB5）。全体と各節の表題等は、空きの行も含めて、刷り上がりと同じ行数の中に入れてください。すなわち、各頁は完全原稿とし、10頁を厳守してください。

◇◇関西部会開催のご案内◇◇

- 日 時：平成23年 6月18日(土) 午後1時30分～午後4時45分
- 場 所：関西大学百周年記念会館第3会議室
(阪急千里山線関大前駅、南改札口側の17号門から百周年記念会館前までエスカレーターが設置されておりますので、ご利用ください。)
- 報告会終了後には懇親会が予定されております。
- 詳細は別途ご案内申し上げます。
- 現在、報告者を募集しております。3名の報告者が揃い次第、募集を締め切ります。ご希望の方は早めに、氏名、所属、報告テーマ(仮題でも可)を部会幹事の陳恵貞 (eb8d101@kansai-u.ac.jp) までお申し出ください。

年会費の
支払いについて

郵便自動払込をご利用ください

手続：イ) 郵便口座の取得

ロ) 最寄りの郵便局に出向き『自動払込利用申込書』に記入

払込先加入者名：日本経営教育学会

払込先口座番号：00150-7-535064

払込開始月：平成23年4月から

払込日：毎年4月10日(再払込日 25日)

なお、領収書が必要な方はEメールでご連絡ください。

是非ご協力ください。

日本経営教育学会事務局

機関誌投稿論文、日本経営教育学会山城賞および山城賞奨励賞、アメリカ経営学会経営教育部会への派遣報告者、韓国経営教育学会への派遣報告者のお申し込みやお問い合わせは、下記までお願いいたします。

日本経営教育学会事務局(担当：魚住 良三)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4 株山城経営研究所内

TEL 03(3264)2100 FAX 03(3234)9988 E-Mail name@kae-yamashiro.co.jp

編集後記

会報第267号をお届けします。新しい年を迎え、兔のように飛躍する昇運の1年であることをお祈り申し上げますとともに、本学会の諸活動に、さらなるご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

樋口弘夫・杉田あけみ

発行 日本経営教育学会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4
株式会社山城経営研究所(担当：魚住)
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp
URL: http://www.j-keieikyoiku.jp/

印刷 ㈱フジヤマ印刷 〒03-3260-3801
E-mail: fujiyama2011@mail.goo.ne.jp